

第6の視点 教育

「豊かな学びで未来を拓く」
グローバル化の進展とともに、様々な分野でAIやIoTが導入されるなど、超スマート社会が現実のものとなりつつあります。このような時代にあっても、

家庭の事情や地域の差なく、すべての子どもたちが、ふるさと三木を愛し、均しく夢に向かって頑張ることのできる。そのような教育環境を整備します。



- 国が進める「GIGAスクール構想」にのっとり、学校における高速大容量のネットワーク環境を整備
- 令和5年度までに、全学年の全児童生徒に一人一台のパソコンが行きわたるよう、タブレット端末5,800台を計画的に導入
- 個々の児童生徒に応じた学習プリントやドリルを活用した反復学習「みっきいすてっぷ」の一層の充実
- プログラミング学習用教材を活用した学習環境の整備充実（民間企業から寄附いただいた教材などを活用）
- 子どもたちにとって望ましい教育環境の整備に向けた学校再編の推進

第7の視点 防災

県内を中心とする関西広域の防災拠点を抱える本市は、元来、災害の少ない、安全安心のまちであります。国が進める国土強靱化にもしっかりと対応したうえ、さらなる防災への取組を進め、生活の拠点

を置くにふさわしい安全安心な場所として、多くの方に選んでもらえるよう、防災のまち、「住むなら三木」の基盤整備を進めます。



- 官民連携による積極的な相互応援協定の締結
- 平成30年7月豪雨の浸水被害が生じた石野地区について、河川の状況調査や流量計算を行い、必要箇所の工事を実施
- “誰一人取り残さない”情報伝達網を構築するため、固定電話やFAXなどへ情報を伝達できる防災緊急通知システムを導入
- 有事の際に二次避難所へ電源が供給できるよう、電気自動車3台を導入（今後、計画的に増車）
- 想定し得る最大規模の浸水想定区域を示した防災マップの更新および全戸配布

令和2年4月から市役所の組織が一部変わります

- 「ゴルフのまち推進課」を設置（2階）
 - 「多文化共生係（市民協働課）」を設置（4階）
 - 「学校再編室」を設置（5階）
 - 「企画政策課」へ「法務情報課」を統合（4階）
 - 「道路河川課」へ「用地管理課」を統合（2階）
 - 「農業共済係（農業振興課）」を廃止（県農業共済組合に統合、事務所は市役所2階にあります）
- 課の配置変更
- ・「縁結び課」を2階から4階へ変更
 - ・「市民協働課（市民交流係、生涯活躍のまち推進係）」を4階から2階へ変更

○令和2年度当初予算に係る主な事業については、広報みき5月号でお知らせします。

第3の視点 子育て支援

本市がこれまで積み上げてきた数々の子育てに対する支援の総合力は、他のどの地域にも引けをとらない充実したものと自負しています。充実の子育て支援にさらなる磨きをかけることで、

緑豊かな自然に包まれ、治安面でも優れた環境のなか、のびのびと子どもたちが育つまち、「子育てするなら三木」のまちづくりを進めます。



- 不妊治療費を助成
- 助産師や保健師などの個別相談と妊産婦同士の仲間づくりを促進する「みっきいたまびよサロン」を毎月開催（21ページ参照）
- 中学3年までの医療費無料
- 0～2歳児の保育料50%軽減
- 国の幼保無償化では措置されない3～5歳の副食費（おかず・おやつ代）を補助（10ページ参照）
- 一時預かり保育の実施日・定員を拡大（15ページ参照）
- 地域や企業などから寄せられた食品を、生活支援の必要な子育て家庭に届ける子ども宅食を実施

第5の視点 公共交通

本市の持続的発展には欠くことのできない神戸電鉄粟生線への新たな支援を行います。また、市民の皆様が待ち望まれ、多額の寄附をいただいている三木駅再生について、新三木駅舎のデザイン決定や、詳細設計を行い、今後の建設工事につなげます。

- 神戸電鉄志染駅から三木駅間の昼間時間帯における増便
- 新三木駅舎のデザイン決定や詳細設計の実施
- バス交通の見直しによる市内間移動の利便性向上
- 吉川地域におけるデマンド型交通の導入検討



第4の視点 移住・定住の促進

市と大和ハウス工業株式会社が締結した連携協定に基づき、青山7丁目に大和ハウス工業が所有する約7ヘクタールの土地を活用して、高齢化したニュータウンへ、新たな世代の循環を促す「団地再耕プロジェクト」に取り組みます。

- 「高齢者や新婚・子育て世帯、学生など多世代の方々に、このモデルタウンへ移り住んでいただき、移転元のスペースへは、新たな若い世代に入っていただく。」この「住み継がれていくまち」として、循環する仕組みを大和ハウス工業とともに構築

